



日時： 平成29年9月11日（月）13:00～15:00  
場所： 気象庁5階大会議室

## 議題

### < 審議事項 >

- （1）気象ビジネス推進コンソーシアム 細則改正（案）
- （2）運営委員の変更
- （3）新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更
- （4）WXBC後援の承認

### < 報告事項 >

- （1）人材育成WG開催報告
- （2）新規気象ビジネス創出WG開催報告
- （3）広報関係
- （4）気象庁の平成30年度概算要求について
- （5）今後のスケジュールについて
- （6）その他

細則改正案は別紙１のとおり。

## < 改正事項 >

- ・ 2年の任期途中で運営委員の変更が必要になった場合の規定を追加

# 審議事項（２）運営委員の変更

2年の任期（H29.3.11～H31年の総会まで）の途中での運営委員の変更

（敬称略）

変更後		変更前（五十音順）		変更理由
遠山 雅之	（株）ウェザーニューズ セールス&マーケティンググループ グループリーダー	大木 雄治	（株）ウェザーニューズ セールス&マーケティンググループ グループリーダー	人事異動
大野 宏之	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 気候変動対応研究領域 上級研究員	大野 宏之	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 気候変動対応研究領域 上級研究員	
沖野 剛史	（株）東芝 技術統括部 技術企画室 参事	沖野 剛史	（株）東芝 技術統括部 技術企画室 参事	
越智 正昭	（株）ハレックス 代表取締役社長	越智 正昭	（株）ハレックス 代表取締役社長	
木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所 教授	木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所 教授	
越塚 登	東京大学大学院情報学環 教授	越塚 登	東京大学大学院情報学環 教授	
櫻井 康博	（一財）日本気象協会 メディア・コンシューマ事業部 部長	櫻井 康博	（一財）日本気象協会 事業本部 事業統括部長	
菅波 潤	富士通（株） テクニカルコンピューティングソリューション事業本部 TC統括営業部 第三営業部長	菅波 潤	富士通（株） テクニカルコンピューティングソリューション事業本部 TC統括営業部 第三営業部長	
橘 克憲	（株）パスコ システム事業部 事業部長	橘 克憲	（株）パスコ システム事業部 事業部長	
田中 真司	ヤフー（株） メディアカンパニー ライフライン事業本部 Yahoo!天気・災害 サービスマネージャー	田中 真司	ヤフー（株） メディアカンパニー ライフライン事業本部 Yahoo!天気・災害 サービスマネージャー	
田原 春美	先端IT活用推進コンソーシアム 副会長	田原 春美	先端IT活用推進コンソーシアム 副会長	
中田 雅史	アサヒ飲料（株） 理事	新田 久	アサヒ飲料（株） 社長付執行役員	逝去
秦野 芳宏	（株）ローソン 経営戦略本部 本部長補佐	秦野 芳宏	（株）ローソン 経営戦略本部 本部長補佐	
平田 祥一郎	（株）三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 知的財産室 シニアマネージャー	平田 祥一郎	（株）三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 知的財産室 シニアマネージャー	
藤川 優	大塚製薬（株） 業務管理部 次長	藤川 優	大塚製薬（株） 業務管理部 次長	
大野 慎吾	三井住友海上火災保険（株） 商品本部 次世代開発推進チーム長	水上 淳一郎	三井住友海上火災保険（株） 商品本部 次世代開発推進チーム長	人事異動
村上 文洋	（株）三菱総合研究所 社会ICT事業本部 ICT・メディア戦略グループ 主席研究員	村上 文洋	（株）三菱総合研究所 社会ICT事業本部 ICT・メディア戦略グループ 主席研究員	
立仙 和巳	（株）日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 ビジネスプロデュース本部 主管	立仙 和巳	（株）日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 ビジネスプロデュース本部 主管	

# 審議事項（3）新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更

## 新規気象ビジネス創出WG

青文字：新規参加希望

（敬称略）座長：三菱総合研究所 村上 文洋、副座長：富士通（株）菅波 潤

所属		備考	所属		備考
1	株式会社IHI		20	株式会社TRUEDATA	新規
2	株式会社エムティーアイ		21	株式会社東芝	運営委員
3	M-SAKUネットワークス		22	日通学園流通経済大学	
4	NTT空間情報株式会社		23	日本IBM株式会社	
5	株式会社NTTデータ経営研究所		24	日本気象株式会社	
6	株式会社ウェザーニューズ	運営委員	25	日本電信電話株式会社	
7	応用地質株式会社		26	株式会社パスコ	運営委員
8	大塚製薬株式会社	運営委員	27	株式会社ハレックス	運営委員
9	株式会社環境エネルギー研究所	新規	28	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
10	経営パワー株式会社		29	株式会社日立製作所	運営委員
11	株式会社構造計画研究所		30	富士通株式会社	運営委員
12	国際航業株式会社		31	株式会社フランクリンジャパン	
13	佐川急便株式会社		32	株式会社ポッケ	
14	シャープ株式会社		33	三井住友海上火災保険株式会社	運営委員 新規
15	新日鉄住金ソリューションズ株式会社		34	株式会社 三菱総合研究所	運営委員
16	株式会社スポーツウェザー		35	株式会社ミライト・テクノロジーズ	
17	一般社団法人全国清涼飲料連合会		36	明星電気株式会社	
18	ソフトバンク株式会社	新規	37	株式会社ライフビジネスウェザー	
19	TISソリューションリンク株式会社		38	リアルワールドゲームス株式会社	

<ご参考：変更なし>

## 人材育成WG

（敬称略）座長：AITC 田原 春美、副座長：（一財）日本気象予報士会 岩田 修

所属		備考
1	AITC	運営委員
2	岐阜大学大学院	
3	一般社団法人全国清涼飲料連合会	
4	日通学園流通経済大学	
5	一般財団法人日本気象協会	運営委員
6	一般社団法人日本気象予報士会	
7	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	運営委員
8	株式会社ハレックス	運営委員
9	株式会社日立製作所	運営委員
10	富士通株式会社	運営委員
11	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	

## 審議事項（４）WXBC後援の承認

詳細は席上配布資料のとおり

## 【人材育成WG開催実績】

- ・8/23（水）第4回
- ・9/5（火）第5回

## 【検討事項】

- 1．第3回WXBCセミナーについて
- 2．第2回WXBCセミナー アンケート分析
- 3．人材育成の課題検討

気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画（案）  
地域特性に合わせた地方セミナーの実施計画（案）  
テクノロジー（IoT、AI）研修計画（案）

## 企画書

### 1 . 概要・目標

気象観測データを活用したサービス事例として天候デリバティブの紹介をするとともに、主な気象観測データ（アメダス（地域気象観測システム）やレーダー、気象衛星）の利用に関して説明を行う。また、観測データとPOSデータを使った分析の話と簡単な実習を行い、さらに知識を深めたい会員を対象に後日勉強会（演習）を行うことを紹介する。その他、入門的な講義及び気象庁内の見学会を実施する。

第2回セミナーと同様に参加者が気象ビジネスの事例を実感し、それに必要な気象データの内容及び入手方法についての基礎的な知識を身に付けるとともに、気象データの処理に関して簡単な実習を行うことにより、こういった所で利用できるかを考えてもらうことを目標とする。

非会員への勧誘や気象ビジネスの普及にも資する。

### 2 . 日時

平成29年9月26日（火）10時45分～12時00分（第1部 気象データの全体像+気象データの入手方法）

気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データの全体像及びカテゴリーについて解説するとともに気象データの入手方法について説明を行う。

13時00分～15時55分（第2部 セミナー本体）

16時00分～16時30分（現業室見学。並行して参加者からの個別質問受付。）

### 3 . 場所

- ・講堂（気象庁2階。第1部（「気象データの全体像+気象データの入手方法」）及び第2部（セミナー本体））
- ・予報・地震火山現業室・気象科学館（現業室見学等）

### 4 . 対象者

- ・WXBC会員100名・非会員20名 計120名
- ・ただし、120名の定員を大きく上回る場合は、追加開催も検討する。  
なお、1回目はWXBC会員を優先する。
- ・「気象データの全体像+気象データの入手方法」及びセミナー本体は事前申込者（先着順）とする。
- ・予報・地震火山現業室見学は事前申込者40名（会員のみ）とする。参加者多数の場合は、事前申込者先着順とし、かつ1社1名とする。
- ・気象科学館はどなたでも見学可。

# 1 . 第3回WXBCセミナーについて (2/2)

5 . 内容 第2部 (4) を除き、5 分程度質疑を行う時間を設ける。

第1部 気象データの全体像+気象データの入手方法について (第2回セミナー第1部及び第2部の4での内容と同一)

気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データにはどのようなものがあるのかを理解いただくため、その全体像及びカテゴリー (分野 (気象 / 地震 / 火山 / 海洋)、観測 / 予測、メッシュ / ポイント等) について解説する。本講義を受けることにより、セミナー本体の理解を促すことを目的とする。また、気象データ提供に関する気象業務法の規定や、気象業務支援センターからの気象データ入手方法 (ルート、経費) 等について、具体例を挙げつつ説明する。また、民間気象事業者からもこれらのデータの入手が可能であることも併せて説明する。

第2部 セミナー本体

(1) 気象ビジネスの具体例について紹介 ~天候デリバティブ~

気象ビジネスの具体例を通じて気象データの利活用場面を実感していただけるよう、気象観測データを活用した民間サービス事例として天候デリバティブの紹介を損害保険ジャパン日本興亜 (株)、三井住友海上火災保険 (株) にしていただく。

(2) アメダスやレーダー、気象衛星などの観測データについて

アメダスやレーダー、気象衛星など主な気象観測データの概要や利用 (データの概要や入手方法、利用上の注意点等) について説明する。

(3) 観測データとPOSデータを使用した分析と実習

観測データとPOSデータを使用した分析の事例を紹介し、気象とビジネスの具体的な関連について説明する。また、観測データとPOSデータを分析する簡単な実習を行い、気象とビジネスを関連づける初歩的な方法を体験していただく。

実習を希望される場合には、PCを持参していただく。

(4) 気象庁見学 (午後: 会員のみ)

気象データをより身近に感じていただくとともに、気象データの作成される過程について理解いただけるよう、気象庁の予報・地震火山現業室の見学を行う。

1 班20名の2班に分け、順次予報・地震火山現業室を見学する。1 箇所あたりの説明時間は10分とし、「各種気象データがどのように作られているか、どのようなルートで発表されているか」等について説明を行う。質疑は3分程度、移動は2分程度を想定。

気象科学館には、セミナー本体後の見学時間には説明員を数名配置する。

6 . その他

(1) 会員へのご案内では、第3回セミナーの意図を明確にお伝えするため、想定している対象者、(前回までとの) 範囲・レベル等の違いを明示してお知らせするとともに、第1回の「気象データの全体像」及び第2回の「気象データの入手方法」の資料の持参をお勧めする。

(2) セミナーの開催について、気象庁HPへの掲載及び記者クラブへのお知らせを行い、WXBCの活動を広く周知する。

(3) PCを用いた実習の際にサポートが十分できない場合があることをセミナーの案内時に記載する。

(4) 気象庁の利活用事例 (パンフレット) を受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

(5) 今回は、第1部の関連資料として、支援センター及びWXBC会員の気象事業者のパンフレットを募集し、受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

(6) 見学を行わない観測部現業室については、資料を受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

(7) 気象科学館の開館時間 (10時~16時) を17時まで延長し、セミナー後の見学も可能にする。

## 2 . 第2回WXBCセミナー アンケート分析（アンケート結果は別紙2）

業種：1回目・2回目ともに情報・通信業が約50%、製造業・サービス業が15%程度、その他は大きな差はない。約11業種からの参加が見られる。

職種：1回目・2回目ともに技術者が全体の約50%で、予報士・研究者が10%程度占めている。企画及び営業・販売については、約20%となっている。（2回目は1回目より5%程減少した。）



対応案

- IT技術者向け勉強会の開催で、気象情報の利活用を中心にフォロー。
- ビジネスと気象の間を繋げる人材として期待される気象予報士については、（アイディアソンの）ファシリテーター等を経験いただく。

セミナーの内容：

- ✓ 説明資料のわかりやすさ、利活用方法や各データの内容等の各講義で伝えるべき内容の理解時間配分、セミナー全体の満足度についても約70%はやや満足以上の評価となっている。
- ✓ 「業務への役立つ内容であったか」については、“どちらとも言えない”や“あまり役に立たない”といった意見もある。
- ✓ 取り上げて欲しいテーマについては、複数回答方式による回答傾向を調べたところ、多少予報・観測の希望は多いものの、その他についても希望があり、広く万遍なく知りたいという傾向となっている。



対応案

- 気象情報に関する基本的な事項の説明を継続することが必要。
- 自業種に関係する内容でなければ評価が得られにくいことが推測され、“業務に役立つ”と感じていただくために、業種別セミナー（講義）が必要か。

各種コメント：

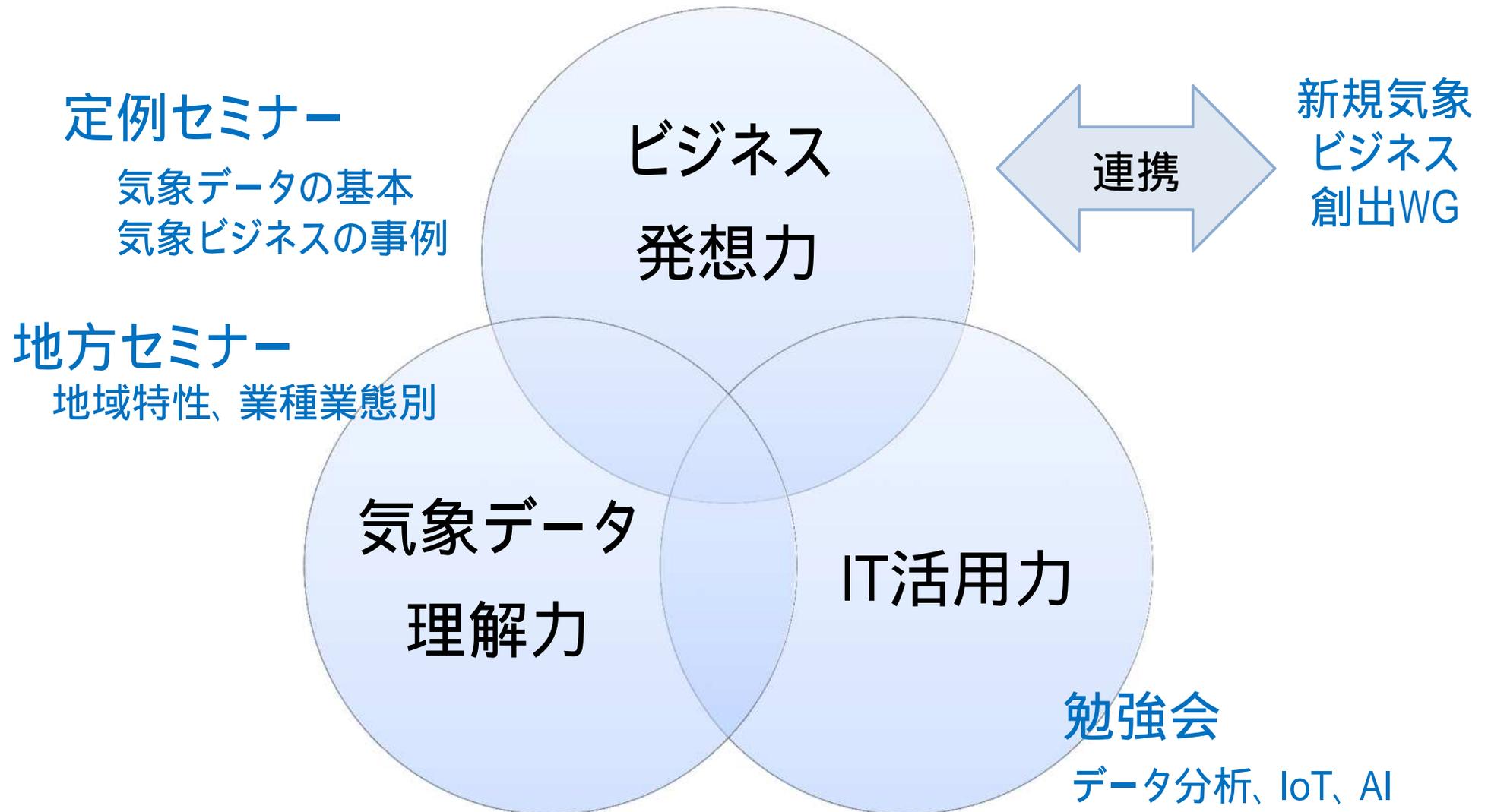
自事業に関連した説明を希望・異業種企業連携を企画してほしい・データ活用環境の改善、様々な業種の事例紹介を希望・費用対効果を示せないためビジネスへの展開が難しい、気象予報へのAIの活用、など。



対応案

- 気象データ関連で、参加者毎の“課題”や“知りたいこと”まで手が届いていない点については、（セミナー後のぶら下がり質問の数が多いことも踏まえて）個別質問の時間、事業者同士のマッチングの時間を設けて細かいニーズに応える。
- 事例紹介や費用対効果については、ビジネスWGでも同様の要望が出ており、同WGにおいて作成を進めている事例集を公開し、情報共有を図る。
- AI、IoTに関する技術関連については、IT技術者向け勉強会でフォロー。

# 人材育成WG:活動とスキルセットの目標



### 3 . 人材育成の課題検討 ( 2/5 )

## 気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画 ( 案 )

#### 人材(A)

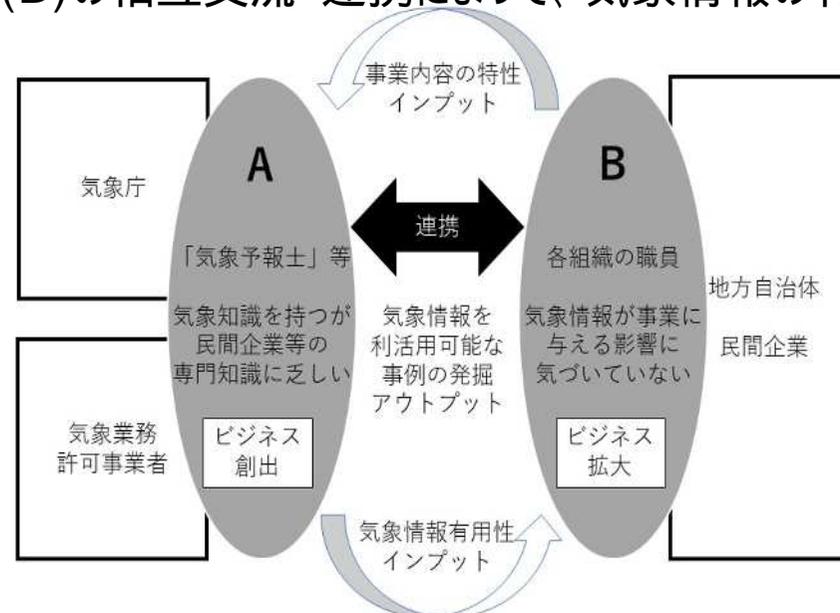
気象予報士のように、気象業界において豊富な気象知識を持っているが、各地域の特性や個々の民間企業の事業に対する専門知識には比較的乏しい人材。

この人材(A)に対し、地方自治体や一般の民間企業の事業特性を理解する場を提供することで、各事業に特化した気象情報を提供する新たなビジネスを創出する新たな人材の育成につながると考えられる。

#### 人材(B)

地方自治体や一般の民間企業の側の人材。この人材(B)に対し、各事業において気象情報がどの程度の影響があるかを理解いただくことで、気象情報の的確な利活用によってビジネスが拡大するチャンスを提供できると考えられる。

これら二つの人材(A)および(B)の相互交流・連携によって、気象情報の利活用が可能なビジネスの発掘を行うことができると考えられる。



当面は、人材(A)として地方自治体や一般の民間企業の事業特性を理解できる気象予報士の育成に力を置くが、地方セミナー等を通じて新たな人材(B)との出会いを得て、新たなビジネスの発掘を目指す。 11

### 3 . 人材育成の課題検討 ( 3/5 )

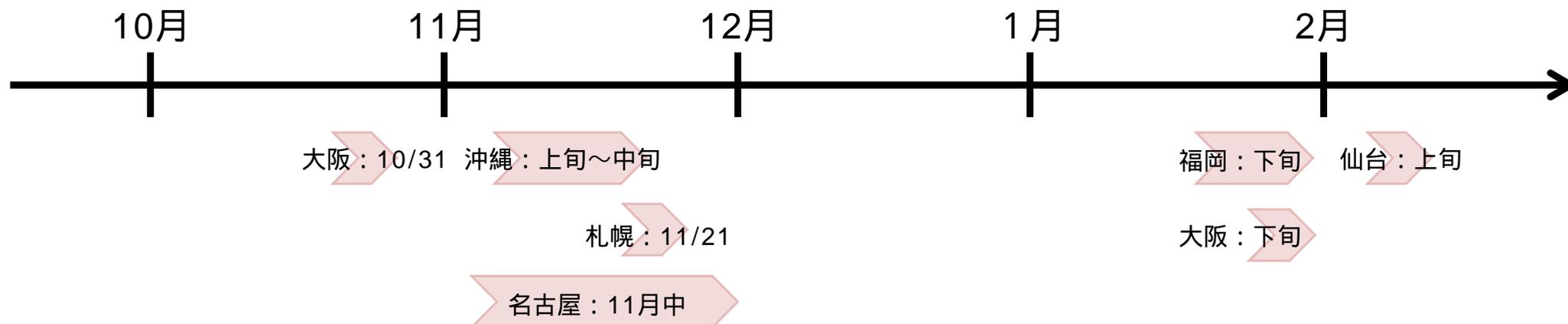
#### 地域特性に合わせた地方セミナーの実施計画 ( 案 )

各地方の産業にはそれぞれ地域特性があるため、地域に応じたテーマで地方セミナーを開催する。

「気象データの全体像」の紹介によって、気象情報の概要と利活用の可能性に触れたのち、ビジネスにおける気象データ利活用の地域特性に沿った事例紹介、さらには地方セミナーの参加者・聴講者による交流会によって新たなビジネスの発掘を目指す。

地方セミナーの開催は各管区・沖縄気象台 ( WXBC事務局 ) と連携して行うこととし、日程及びテーマについては、各管区・沖縄気象台と調整したうえ、人材育成WGにて決定する。

#### スケジュール ( 案 )



# 3 . 人材育成の課題検討 ( 4/5 )

## テクノロジー ( IoT、AI ) 研修計画 ( 案 )

### テクノロジー ( IoT、AI ) 研修計画 ( 案 ) の概要

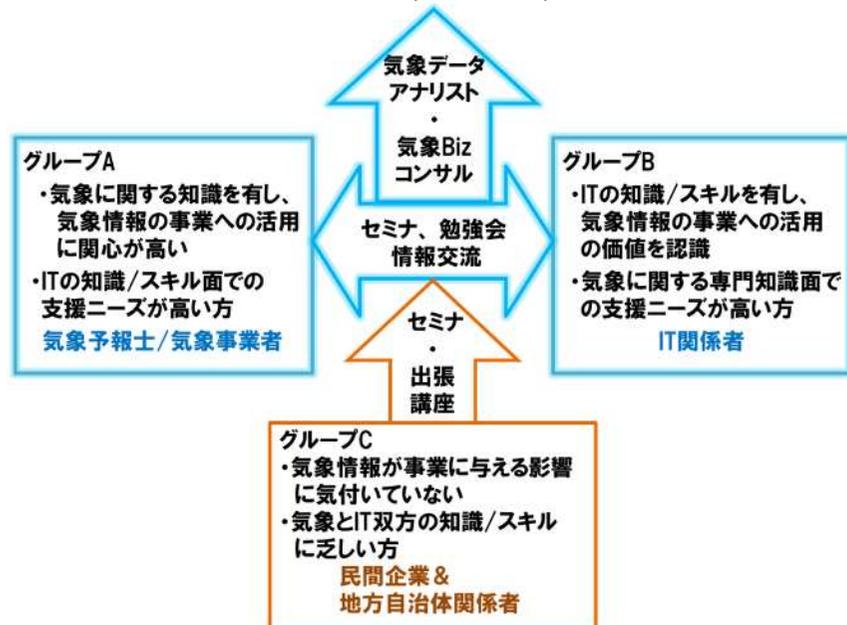
< 目的 > 共に気づき、共に学びながら、気象ビジネスにITを利用できる人の輪を広げる  
 - 各技術に集中し、触って、試してみることで、ITを利用した気象ビジネスへ興味を持っていただくことを目指す

< 対象技術分野 > データ分析、IoT、AI

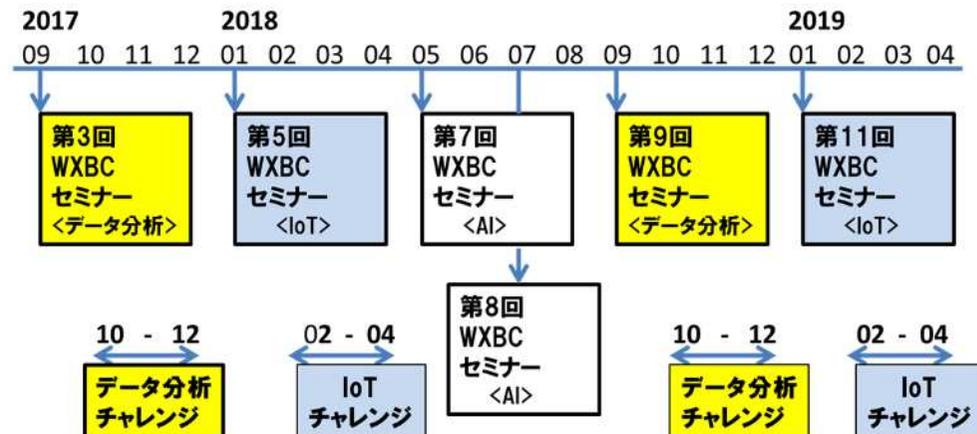
< 主対象者 > 下図グループA、Bに該当する方

< 実施方法 > 1サイクル = < セミナー ( 概説レベル )                      データ分析チャレンジ ( 演習中心3回 ) >  
 ( 勉強会を終了した時点で、更なるスキルの習得を望む人へのフォローに配慮 )

【参考図1】 テクノロジー ( IoT、AI ) 研修計画 概念図



【参考図2】 テクノロジー ( IoT、AI ) 研修計画 スケジュール ( 案 )



- 対象者： ITのスキルがあり、これから気象情報を活用して企画、提案を行いたい人  
第1回WXBCセミナー参加者比率： IT業界52.6%、営業・販売・企画職48.5%  
第2回WXBCセミナー参加者比率： IT業界44.4%、営業・販売・企画職33.8%  
募集要項では、EXCELの基本的な操作ができて、自分の作業環境(ノートPC、ソフト)が準備できることを条件にする。
- 募集人員： 30名
- 日程： 2017年10月20日(金)、11月7日(火)、11月20日(月)の3回
- 場所： 気象庁大会議室
- ゴール： 気象データに慣れ、他データを掛け合わせた分析を行い、可視化すること  
データ分析結果を「かっこいいグラフ」でわかりやすく示せると、勉強会に参加した成果を社内でPRしやすい。実際の企画提案の場でも役立つ。

#### 進め方：

第1回 (個人ワーク) 気象データと掛け合わせる対象データに触ってみよう！

第2回 (グループワーク) 対象データと気象の関係を考え、仮説を立ててみよう！  
仮説を検証し、可視化してみよう！

第3回 (結果発表) 気づきを共有しよう！

(情報提供) 利用可能な気象データとツールのご紹介

ファシリテーター：人材育成WGメンバーが担当

課題： 模擬実施(日程調整中)、個人ワーク&グループワークのアドバイザー(気象予報士)

## 【新規気象ビジネス創出WG開催実績】

- ・7/27（木）第3回
- ・9/4（月）第4回

## 【検討事項】

- 1．ビジネスにおける気象情報の利活用事例集の作成
- 2．アイデアソン体験
- 3．気象情報利用に関するアイデア創出イベントの開催

# 1 . ビジネスにおける気象情報の利活用事例集の作成

利益を生み出す事に主眼を置いた、ビジネスにおける気象データの利活用事例集の作成・公開に向け、WXBC会員全員へ下記の内容で報告を依頼することとしている。

内容	記載例
取り組み名称	気温予測による 商品の拡販
対象者（想定含む）	自社、飲食店、 業界、一般市民
取り組み概要 （システムを用いている場合はその概要図）	の売上が伸びる気温となるタイミングに合わせて、顧客に適切な商品を訴求することで売上拡大を図っている。在庫と納期の確認、お客様へのセールストーク、VisualPresentationを変更、販促物の設置に関係した活用が行われている。
この取り組みを始めたきっかけ	機会損失(売り逃し)や人件費等のコスト削減
使っている気象情報（の種類）	気温、気象レーダー、1か月予報、短期予報
気象情報以外のデータ	販売データ、ツイッター
この取り組みの効果 （システムを用いている場合は、その利便性等）	気温予報に基づく取り組みは の拡販に一定の効果があり、特に店頭販売員の意識として効果的であった。一方で、ある日の売上には、気象条件だけでなく、販売員のスキル、競合の施策等の様々な要因が効いてくることには留意する必要がある。
気象情報の利用が上手くいった / 行かなかった要因	気温の予想であれば、具体的な数字でわかるため、利用できた。また、予測が大きく外れた場合でも実際の気温で販売方法等の対応を変更することができる。
気象庁・民間気象事業者の気象情報と貴社のニーズのマッチング状況	気象庁の観測データでは観測間隔が粗く、各店舗周辺の細かな気温データ、気温予想が必要と感じている。気象事業者のサービスで適合するものがあったため、それを利用して改善をしたい。
貴社の商品・サービスで気象の影響があるもの	商品販売計画：気温に応じて商品毎の販売数が異なる。 商品製造計画：気温に応じて販売数が急激に変動するため、それに対応できるような製品準備の3週間程度のリードタイムが必要

## 2. アイデアソン体験

9/4（月）の第4回新規気象ビジネス創出WGにおいて、今後のWGの活動に繋げていくことを目的に、「気象×（観光、子育てetc.）」のテーマでアイデア集めを体験。

場所：富士通デジタルトランスフォーメーションセンター

グループ：7班

スケジュール：10:00-10:15 オリエンテーション&アイスブレイク

10:15-10:30 アイデア出し（3分×4回）

10:30-10:45 アイデアシート作成（15分）

10:45-11:00 投票（15分）

11:00-11:20 プレゼンテーション（3分×6件程度）



アイスブレイク



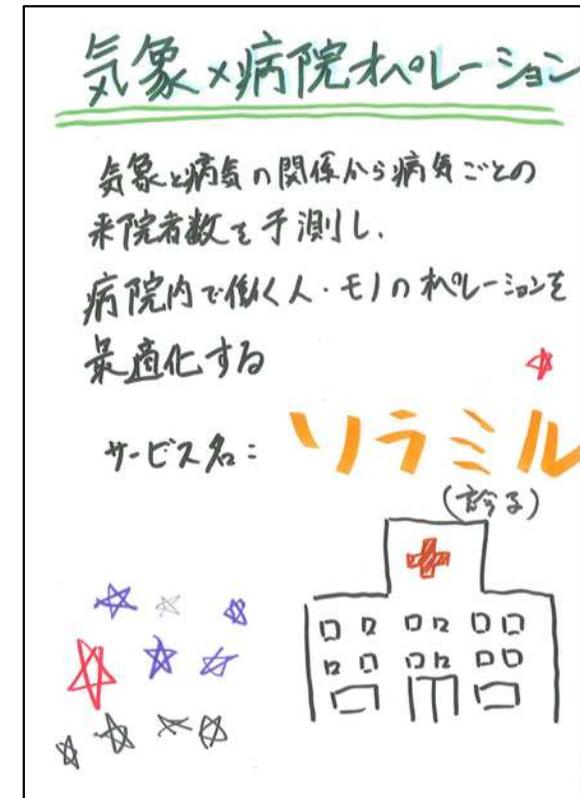
アイデア出し



アイデアシート作成



投票



優勝アイデア

### 3 . 気象情報利用に関するアイデア創出イベントの開催

下記の目的、日程、規模により、気象情報利用に関するアイデア創出イベントの開催を計画している。

今後WGにて対象者や内容の詳細を企画・検討したうえ、イベントを開催に向けて準備を進める。

#### 目的

- WXBCの活動を広く世の中に示す。
- 参加者に、世の中に流通する気象データの要素・形式や、そのビジネスへの活用の可能性に気付いていただく。
- 気象データに関する知識を持つ参加者には、気象データに関する知識を生かし、他のデータとともに気象データを解析することによりソリューションを提案することの価値に気付いていただく。

#### 日程

平成30年 1月下旬の 1日間 10:00～17:00

#### 定員

約 50名 ( 6名×8チーム )

## ニュースレター発行

- ・8月16日 ニュースレターVol. 7
  1. 第4回運営委員会が7月25日（火）に開催されました
  2. 事務局からのお願い
  
- ・9月1日 ニュースレターVol. 8
  1. 第3回WXBCセミナーの企画が固まりました
  2. 「先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト」のご案内
  3. 地球ウォッチャーズ - 気象友の会 - のご紹介
  
- ・9月中旬 ニュースレターVol. 9（予定）
  - ひまわりシンポジウム開催報告
  - 気象ビジネス事例の情報提供のお願い
  
- ・9月下旬 ニュースレターVol. 10（予定）
  - データ分析チャレンジ開催のお知らせ
  - 地方セミナー開催のお知らせ
  
- ・10月上旬 ニュースレターVol. 11（予定）
  - ビッグデータ分析コンテストのお知らせ
  
- ・10月下旬 ニュースレターVol. 12（予定）
  - 第4回WXBCセミナーの企画決定
  
- ・11月上旬 ニュースレターVol. 13（予定）
  - アイデア創出イベント参加者募集のお知らせ

## HP、メーリングリスト ( ML ) 運用について

10月上旬：新メーリングリスト ( 登録者数の増加対応、WXBC専用アドレスへの移行 ) の運用開始

10月下旬：部外サーバーによる ( リニューアル ) コンソーシアムホームページの順次公開開始。

12月中旬完成予定 ( 気象庁HPとは連携しての運用 )

今後HPのデザイン等でご相談をさせていただく場合がございますので、ご協力よろしくお願いたします。

## コンソーシアムチラシの更新

現在のWXBCチラシについて、10月中旬を目処に改訂いたします。今後デザイン等でご相談をさせていただく場合がございますので、ご協力よろしくお願いたします。



左：表面

右：裏面

# 報告事項（４）気象庁の平成30年度概算要求について

## 産業分野での気象情報の利活用促進

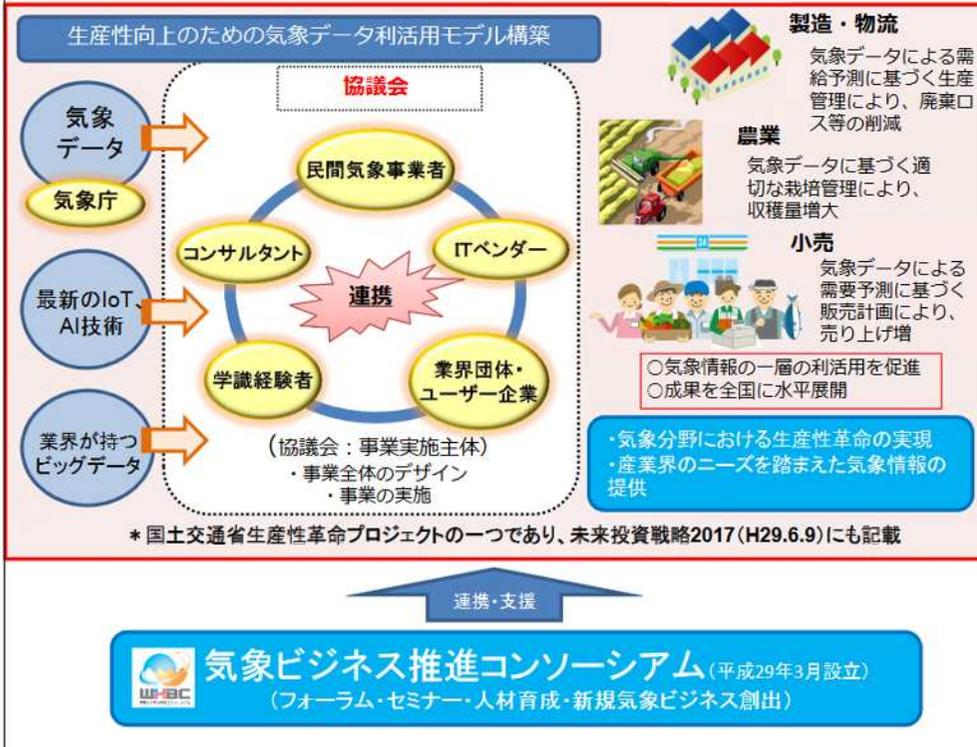
- (1) 気象ビジネス推進コンソーシアム等を通じ、産業分野におけるIoT、AI等の技術による気象データの利活用を促進。
- (2) 気温の影響が大きい産業界の多様なニーズを踏まえ、「2週間気温予報」を新たに開始する。

(1) 生産性向上のための気象データ利活用モデル実証事業(新規) 49百万円

(2) 2週間気温予報の開始(更新/新規) 68百万円

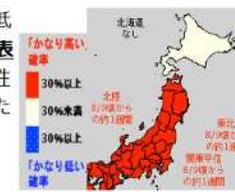
◎生産性向上を図るため、IoT、AI等の技術により、産業分野において気象データを利活用する先進的・革新的で汎用性のある取組を実証的に実施

◎「異常天候早期警戒情報」については、農業や小売業をはじめ、気温の影響が大きい産業を中心に活用されてきたが、農業・電力・アパレル等の産業界の多様なニーズを踏まえ、「2週間気温予報」として新たに発表する。



### 異常天候早期警戒情報(現行システム)

- ・1～2週間先に極端な高温・低温が予測される場合に**臨時に発表**
- ・予報期間が長く予測に不確実性が伴うことから、**確率表現**としてきた



### 2週間気温予報(新システム)

予測技術の向上に伴い、情報内容を抜本的に見直し、新たに、「2週間気温予報」として**気温の値を毎日発表**

日付	9 火	10 水	11 木	12 金	13 土
東京 最高(℃)	34 (32-36)	34 (32-36)	33 (31-35)	33 (31-35)	32 (30-34)
東京 最低(℃)	27 (25-29)	27 (25-29)	26 (24-28)	25 (23-27)	24 (22-26)

(5日間平均気温)

幅広い分野における気温リスクの軽減と生産性向上に貢献

## 組織・定員要求

### 1. 組織

気象ビジネス市場の創出・活性化のための実施体制の強化  
本庁総務部情報利用推進課「気象ビジネス支援企画室」設置

### 2. 定員

気象ビジネス創出業務  
気象ビジネス市場の創出・活性化のための実施体制の強化 5人

## 運営委員会の今後の予定

第6回：11月上旬（日程調整中）

第7回：12月上旬（日程調整中：必要に応じて）

第8回：平成30年1月中旬（日程調整中）

第9回：平成30年3月中旬（日程調整中）

気象ビジネス推進コンソーシアム 細則

( 総則 )

第 1 条 気象ビジネス推進コンソーシアム規約 ( 以下「規約」という。 ) 第 2 0 条に基づき、ここに細則を定める。

( 会員 )

第 2 条 当分の間、規約第 4 条第 2 項に規定の法人会員、有識者会員、特別会員のどの種別にも当てはまらない又はこれらの構成員である個人から気象ビジネス推進コンソーシアム ( 以下「コンソーシアム」という。 ) への入会申し込みがあった場合、その個人が次の条件を了承することを確認した上、個人会員として入会を認めることとする。

一 個人会員は総会に出席することができる。ただし、総会の議決権は、法人会員、有識者会員及び特別会員のみ保有するものとする。

二 役員、運営委員に就任できるのは、法人会員、有識者会員及び特別会員のみとする。

三 ワーキング・グループに参加できるのは、法人会員、有識者会員及び特別会員のみとする。

四 個人会員は、法人会員、有識者会員及び特別会員の全員へ共有するものと同じ情報を受けることができるものとする。

五 個人会員は、コンソーシアム主催の催事に参加することができる。ただし、発表や講演を行う場合、個人会員の所属企業名ではなく、個人名及び有する資格等を用いて行うものとする。

( 会員名簿の公表 )

第 3 条 コンソーシアム会員の名簿については、公表を認めた法人会員、有識者会員、特別会員の情報のみ掲載し、運営委員会での承認を得て公表するものとする。

( 入退会 )

第 4 条 入会申込書、退会届の記載内容を別添のとおり定める。

第 5 条 法人会員が解散又は破産したときには、退会したものとみなす。

第 6 条 法人会員以外の会員については、メールで連絡が取れなくなった場合、

## < 改正案 >

退会したものとみなす。

( 総会 )

第 7 条 総会の議事録は事務局にて作成し、出席した運営委員の了承を得て公開するものとする。

( 運営委員会 )

第 8 条 運営委員の任期は原則として 2 年とする。ただし、再任することができる。

2 運営委員が欠けた場合、運営委員会は当該運営委員の所属する法人から補欠の運営委員を臨時に選任することができる。

3 前項の規定による運営委員の選任は、選任後最初の総会で事後の承認を得なければならない。

4 第 2 項の選任による運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 9 条 運営委員会開催の発議は、運営委員が会長に対して行うことができる。

第 10 条 規約第 13 条第 6 項に基づき、運営委員会を招集する運営委員あるいは運営委員長を会長が指名する必要がある場合は、前条の運営委員会開催の発議が行われる都度指名するものとする。

2 同項に基づき、電子メール等の電子的手段により運営委員会を開催する場合は、その議事は運営委員の過半数をもって決するものとし、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第 11 条 運営委員会の議事録は事務局にて作成し、出席した運営委員の了承を得て公開するものとする。

( 専門ワーキング・グループ )

第 12 条 ワーキング・グループの構成員は、コンソーシアム会員が申請し、運営委員会の承認を得なければならない。

2 ワーキング・グループの構成員には、運営委員が含まれるよう努めるものとする。

3 ワーキング・グループに座長、副座長を置き、ワーキング・グループ構成員の互選により選出するものとする。

4 座長は、ワーキング・グループを主宰する。

5 副座長は、座長を補佐し、座長不在時においてその任務を代行する。

## < 改正案 >

- 6 ワーキング・グループには、必要に応じてサブグループを設置することができる。
- 7 サブグループの設置は、ワーキング・グループが自ら定める方法で決定することができる。サブグループの廃止も同様とする。
- 8 サブグループを設置若しくは廃止した場合は、運営委員会に報告しなければならない。
- 9 ワーキング・グループの活動方針、活動内容については、適時に運営委員会へ報告するものとする。

第13条 ワーキング・グループを廃止する場合は、運営委員会の承認を得なければならない。

(規約の変更)

第14条 本細則は、運営委員会の決議をもって変更することができる。

第15条 コンソーシアムとしての外部イベントへの後援・協賛・協力等については、運営委員会の承認を得なければならない。

付則 この細則は、平成29年6月14日より施行する。

# 『第2回気象ビジネス推進コンソーシアムセミナー』アンケート結果

気象データの全体像のみ

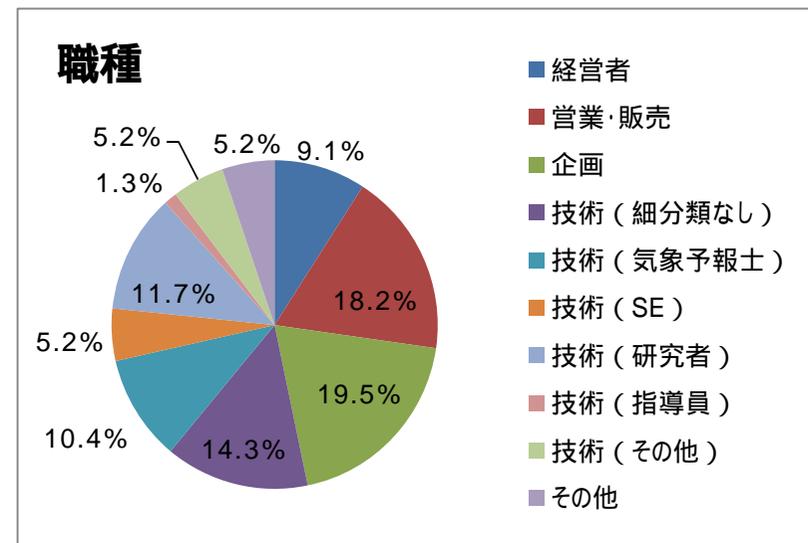
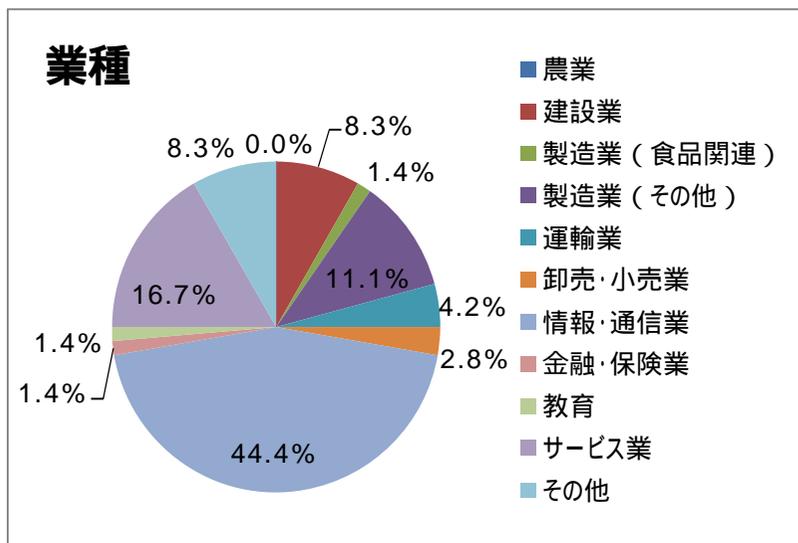
参加者	96	回答数	74	回答率	77.1%
参加者	48	回答数	41	回答率	85.4%

問1 あなたの業種・職種に該当するものを で囲んでください（複数回答可）

業種												
選択肢	農業	建設業	製造業 (食品関連)	製造業 (その他)	運輸業	卸売・ 小売業	情報・ 通信業	金融・ 保険業	教育	サービス 業	その他	計
回答数	0	6	1	8	3	2	32	1	1	12	6	72
回答率	0.0%	8.3%	1.4%	11.1%	4.2%	2.8%	44.4%	1.4%	1.4%	16.7%	8.3%	-

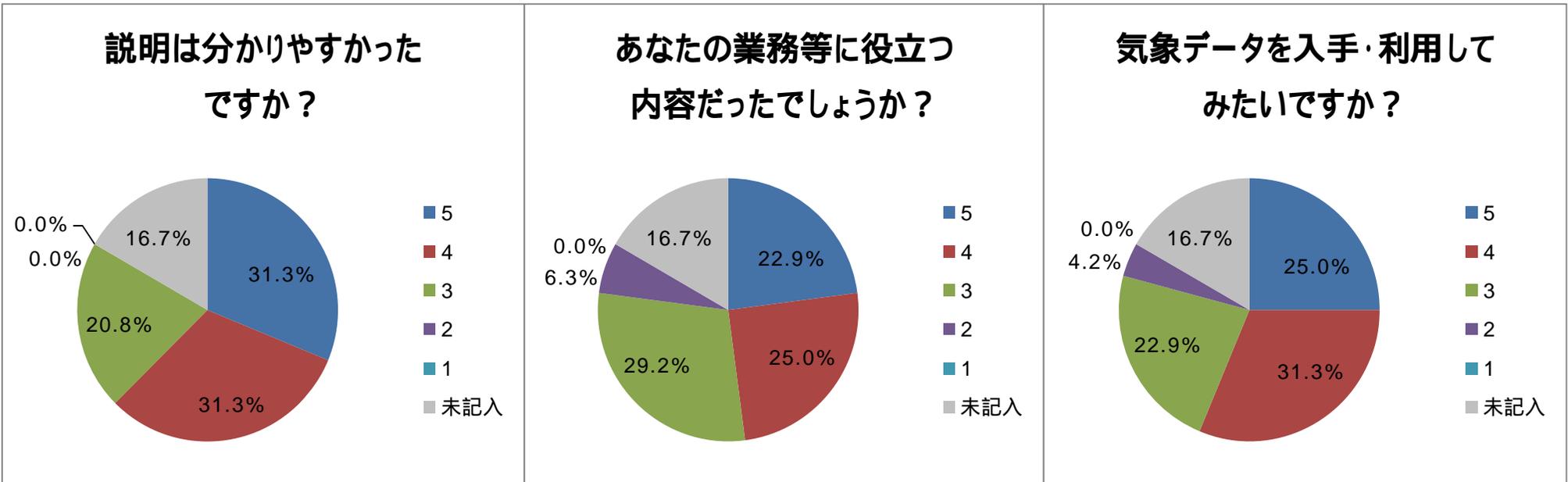
職種											
選択肢	経営者	営業・ 販売	企画	技術(細 分類なし)	技術 (気象 予報士)	技術(SE)	技術 (研究者)	技術 (指導員)	技術 (その他)	その他	計
回答数	7	14	15	11	8	4	9	1	4	4	77
回答率	9.1%	18.2%	19.5%	14.3%	10.4%	5.2%	11.7%	1.3%	5.2%	5.2%	-



問2 今回のセミナーの内容について

(0) 気象データの全体像 (受講した方のみご回答ください)								
説明は分かりやすかったですか？			あなたの業務等に役立つ内容だったでしょうか？			気象データを入手・利用してみたいですか？		
選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
5-とても分かりやすい	15	31.3%	5-とても役に立つ	11	22.9%	5-そう思う	12	25.0%
4-分かりやすい	15	31.3%	4-役に立つ	12	25.0%	4-ややそう思う	15	31.3%
3-どちらともいえない	10	20.8%	3-どちらともいえない	14	29.2%	3-どちらともいえない	11	22.9%
2-あまり分からない	0	0.0%	2-あまり役に立たない	3	6.3%	2-あまりそう思わない	2	4.2%
1-全く分からない	0	0.0%	1-全く役に立たない	0	0.0%	1-まったくそう思わない	0	0.0%
未記入	8	16.7%	未記入	8	16.7%	未記入	8	16.7%
計	48	100.0%	計	48	100.0%	計	48	100.0%

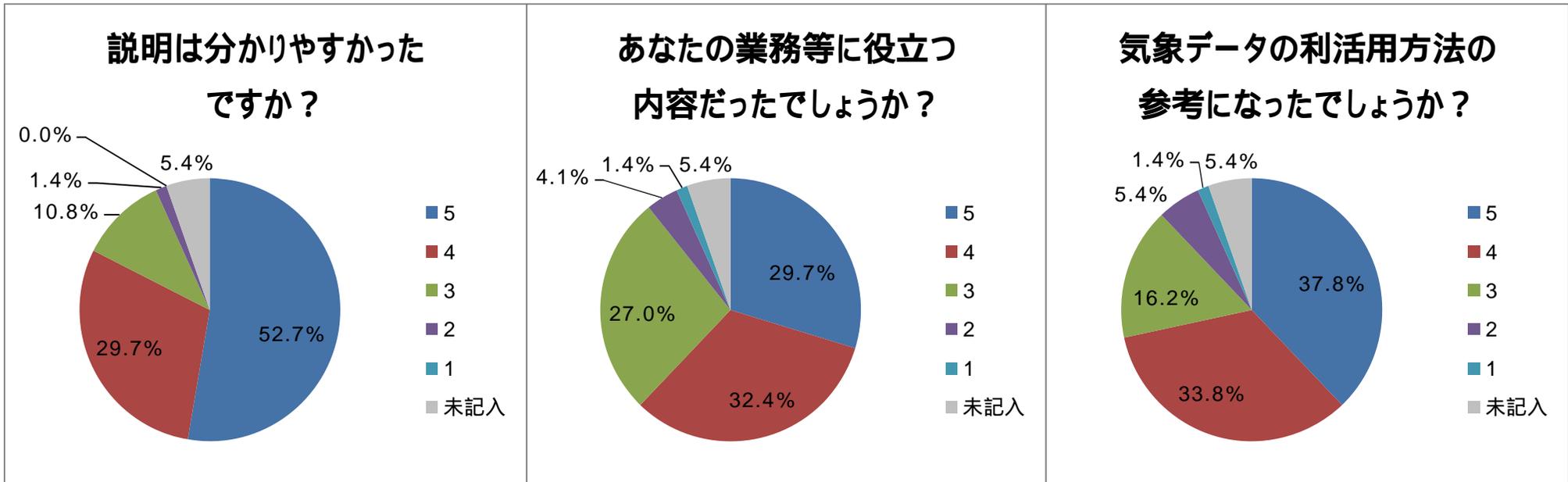
評価の理由は別添参照



## 問2 今回のセミナーの内容について

(1) 気象ビジネスの具体例について紹介 ～気象と物流～								
説明は分かりやすかったですか？			あなたの業務等に役立つ内容だったでしょうか？			気象データの利活用方法の参考になったでしょうか？		
選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
5-とても分かりやすい	39	52.7%	5-とても役に立つ	22	29.7%	5-そう思う	28	37.8%
4-分かりやすい	22	29.7%	4-役に立つ	24	32.4%	4-ややそう思う	25	33.8%
3-どちらともいえない	8	10.8%	3-どちらともいえない	20	27.0%	3-どちらともいえない	12	16.2%
2-あまり分からない	1	1.4%	2-あまり役に立たない	3	4.1%	2-あまりそう思わない	4	5.4%
1-全く分からない	0	0.0%	1-全く役に立たない	1	1.4%	1-まったくそう思わない	1	1.4%
未記入	4	5.4%	未記入	4	5.4%	未記入	4	5.4%
計	74	100.0%	計	74	100.0%	計	74	100.0%

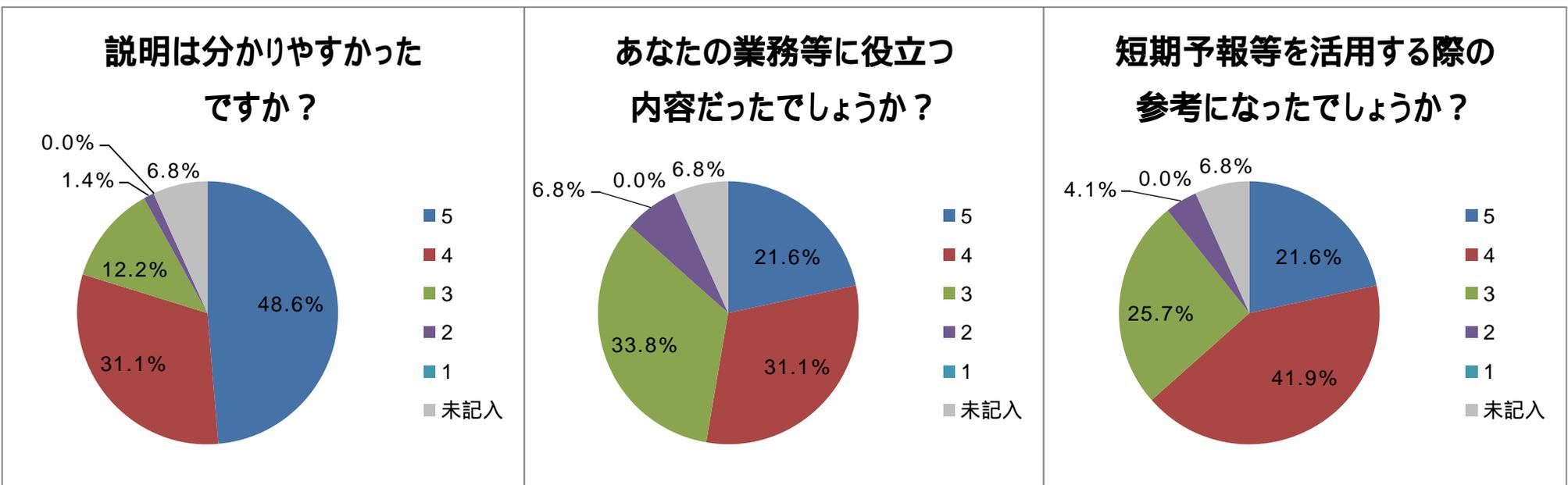
評価の理由は別添参照



## 問2 今回のセミナーの内容について

(2) 短期予報・週間予報・異常天候早期警戒情報について								
説明は分かりやすかったですか？			あなたの業務等に役立つ内容だったでしょうか？			短期予報等を活用する際の参考になったでしょうか？		
選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
5-とても分かりやすい	36	48.6%	5-とても役に立つ	16	21.6%	5-そう思う	16	21.6%
4-分かりやすい	23	31.1%	4-役に立つ	23	31.1%	4-ややそう思う	31	41.9%
3-どちらともいえない	9	12.2%	3-どちらともいえない	25	33.8%	3-どちらともいえない	19	25.7%
2-あまり分からない	1	1.4%	2-あまり役に立たない	5	6.8%	2-あまりそう思わない	3	4.1%
1-全く分からない	0	0.0%	1-全く役に立たない	0	0.0%	1-まったくそう思わない	0	0.0%
未記入	5	6.8%	未記入	5	6.8%	未記入	5	6.8%
計	74	100.0%	計	74	100.0%	計	74	100.0%

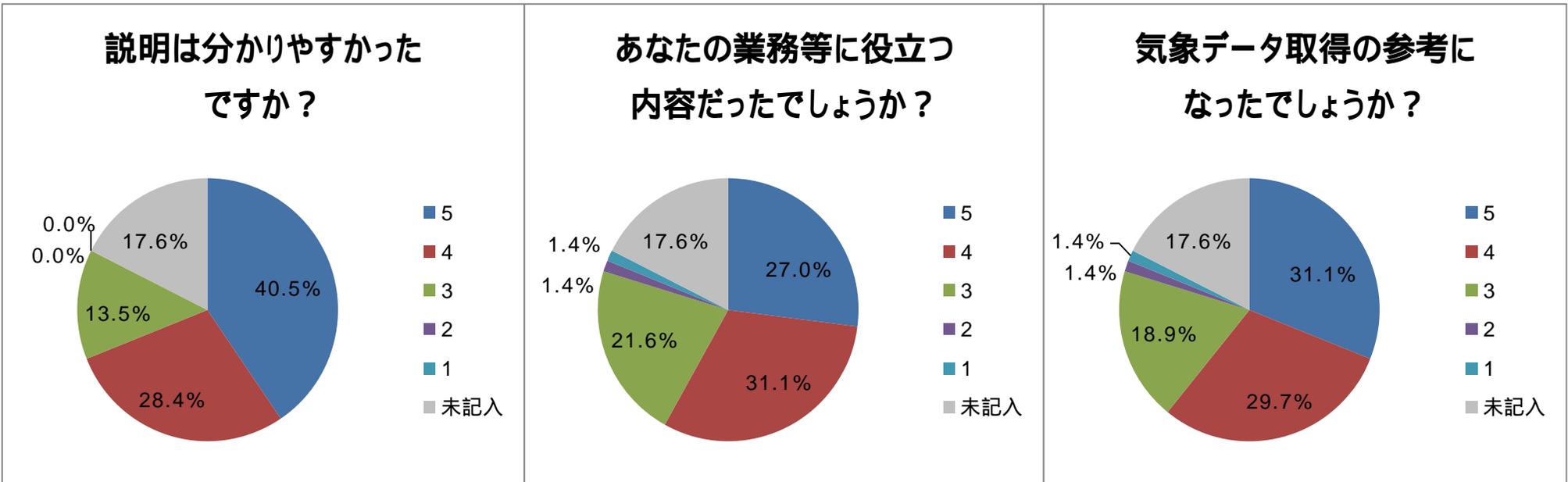
評価の理由は別添参照



問2 今回のセミナーの内容について

(3) 気象データの入手方法について								
説明は分かりやすかったですか？			あなたの業務等に役立つ内容だったでしょうか？			気象データ取得の参考になったでしょうか？		
選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
5-とても分かりやすい	30	40.5%	5-とても役に立つ	20	27.0%	5-そう思う	23	31.1%
4-分かりやすい	21	28.4%	4-役に立つ	23	31.1%	4-ややそう思う	22	29.7%
3-どちらともいえない	10	13.5%	3-どちらともいえない	16	21.6%	3-どちらともいえない	14	18.9%
2-あまり分からない	0	0.0%	2-あまり役に立たない	1	1.4%	2-あまりそう思わない	1	1.4%
1-全く分からない	0	0.0%	1-全く役に立たない	1	1.4%	1-まったくそう思わない	1	1.4%
未記入	13	17.6%	未記入	13	17.6%	未記入	13	17.6%
計	74	100.0%	計	74	100.0%	計	74	100.0%

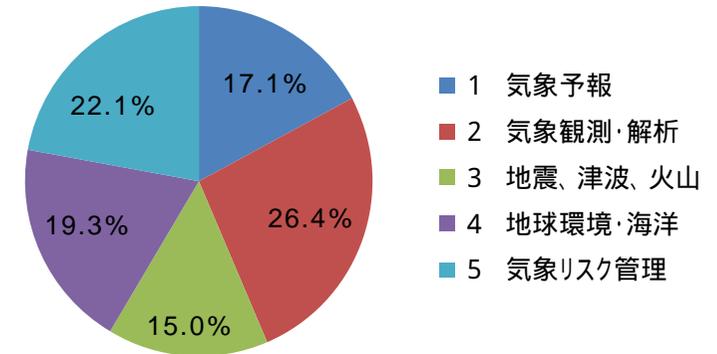
評価の理由は別添参照



## 問3 今後のセミナーで取り上げて欲しいテーマを教えてください

1. 気象関連：以下の1～5の内、3つまで で囲んでください		
選択肢	回答数	回答率
1 気象予報 (天気予報、数値予報、週間予報、長期予報 等)	24	17.1%
2 気象観測・解析 (地上観測、気象統計、気象レーダー、気象衛星 等)	37	26.4%
3 地震、津波、火山 (緊急地震速報、噴火警報・予報等、降灰予報 等)	21	15.0%
4 地球環境・海洋 (黄砂・紫外線等の環境気象情報、海洋情報 等)	27	19.3%
5 気象リスク管理	31	22.1%
計	140	-

気象関連で取り上げて欲しいテーマ



2. 気象ビジネス関連：気象データを活用した取組で聞いてみたい内容 等		
1 防災系ソリューション	15	気象データを用いた、デリバティブにおける、リスク、リターンの実例について。
2 気候学	16	気象データと、どのようなデータをかけあわせたら、おもしろい分析となったのかの実例
3 エアコン需要	17	農業との連動や小売店とのデータ連動
4 気象と農業	18	特定の場所での気象観測とリモート監視の手法（国内・海外）
5 事例/実証実験/分析・予測の例	19	気象・気候と自然エネルギー開発
6 気象マーケティングについて	20	気象とビジネスの具体例
7 APIをもちいた予報利用事例について	21	製造業における気象データの活用例
8 今回のようなコンサルティング事例。	22	気象データを活用し、ビジネスとして成立した事例（海外含め）
9 地球環境・海洋関連	23	官民での利活用の事例など。
10 IoT機器と連携した事例があれば。	24	各民間気象情報からのサービス内容・特徴・事例の紹介
11 花粉の予測、熱中症対策に関するもの	25	気象データネットワークについて
12 海洋情報等	26	気象データを活用した観光・レジャー、登山の天気などへの取組
13 気象データを商用活用する際の規制	27	日本と世界の観測の実際と将来
14 AI活用の可能性	28	気象データを取り扱ったことのない人がいちから使用してビジネスに活かすのにどのくらいの期間かかるのか。

問3 今後のセミナーで取り上げて欲しいテーマを教えてください

3 . 技術関連：気象データの利用に関連した技術で聞いてみたい内容 等	
1	湿度の実測及び予測方法
2	需要予測モデルの具体的な作り方など。
3	GRIB2やNetCDFなど不慣れなデータ形式を扱うにあたり、必要となる条件（例：PCのスペックなど）は何か。
4	統計、機械学習の使い分け、使いどころ
5	・風の流れの空間内での観測（見える化）：500m×500m×200m（H） ・特定の場所での風向風速の短時間予測方法（高価でないもの）
6	民間気象会社、気象庁でのAPIの提供状況について
7	AI、機械学習
8	地球環境・海洋関連
9	産業別の利用データ、重視データの違い、求められる精度やタイミング等。
10	気象データの精度向上、あるいは、民間レベルも含めてのデータ収集、活用のシステム形成等
11	AIを利用した気象データの解析方法の取り組み（あれば）
12	活用事例等
13	長期予報の利用
14	湿度についての技術について
15	局地的雷雨の予報技術について
16	PC、スマートフォン、タブレットを利用したユーザ側の使用例。
17	AI活用の可能性
18	気象予報へのAI活用について
19	予報以外の利用方法
20	IoT活用の領域

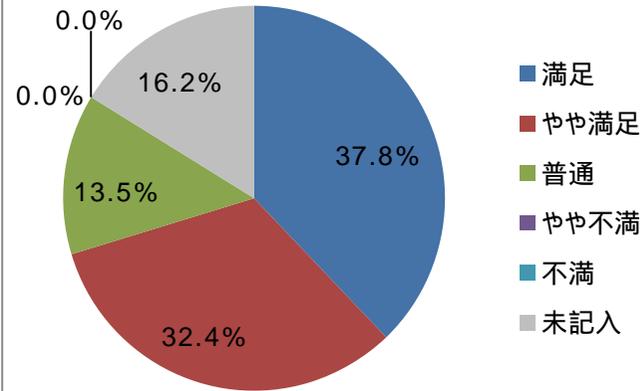
4 . その他に、ご希望やご意見等ありましたらご記入ください	
1	事例の紹介やマッチングについて厚くしていただけると喜びます。
2	気象測器メーカーとして、観測精度の向上あるいは技術的な要望はあるのか
3	今までも含めてこの様なセミナーは気象について知るのに非常に役に立った。
4	人の行動と気象についての相関の研究について食品以外の商材についてデータが欲しいです
5	人間活動と気象・気候の相関関係の解析・研究
6	洪水予報への係わり内容など

問4 セミナー全般について、該当するものを で囲んでください

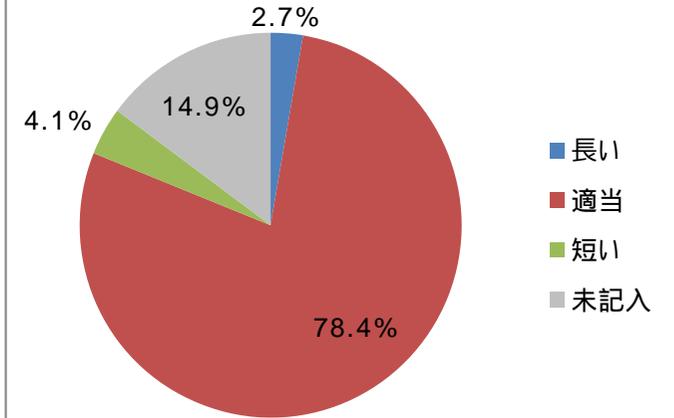
(1) 今回の満足度について

選択肢	回答数	回答率
満足	28	37.8%
やや満足	24	32.4%
普通	10	13.5%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
未記入	12	16.2%
計	74	100.0%

(1) 今回の満足度について



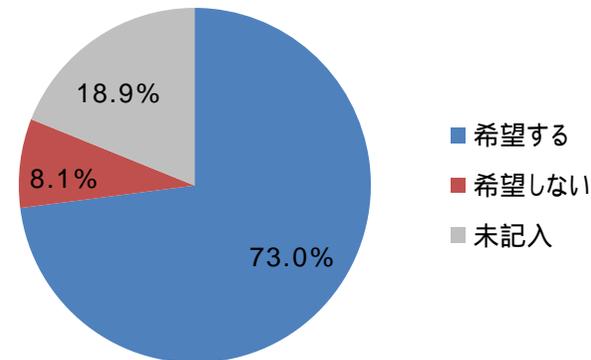
(2) 各説明時間について



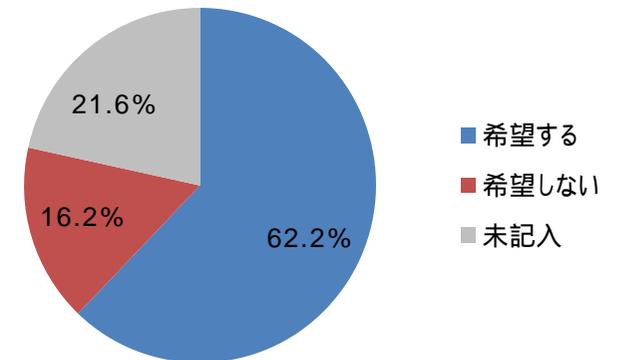
(2) 各説明時間について

選択肢	回答数	回答率
長い	2	2.7%
適当	58	78.4%
短い	3	4.1%
未記入	11	14.9%
計	74	100.0%

(3) 気象データの分析等技術に関するセミナーの開催について



(4) 気象データの分析等の実習形式の勉強会の開催について



(3) 気象データの分析等技術に関するセミナーの開催について

選択肢	回答数	回答率
希望する	54	73.0%
希望しない	6	8.1%
未記入	14	18.9%
計	74	100.0%

(4) 気象データの分析等の実習形式の勉強会の開催について

選択肢	回答数	回答率
希望する	46	62.2%
希望しない	12	16.2%
未記入	16	21.6%
計	74	100.0%

問5 あなたが気象データを活用する上での課題があれば、ご記入願います。

1	データの入手と加工のためのソフトウェアの例など	12	コストがかかること。
2	CSV、XMLデータの加工方法	13	費用
3	第3者に説明するには難しいデータ	14	・導入コスト ・予報データ活用による高価の根拠
4	過去（半世紀分程度）の天気図の入手	15	自分たちの問題解決と気象データの連携手法が見い出せていない。
5	ビジネスモデルに合った気象データがあるかどうか検討する必要がある	16	事業者側がどのようなデータを用意すれば、気象データとの連動がしやすいかが聞きたい
6	民間企業の配信データと、気象庁/支援センターの配信データとの中間にあたる制度、扱い易さ	17	顧客の発掘とビジネス展開。気象データとの相関関係を発見する上での相手先データの入手。
7	内航船の運航効率化を検討しており、出荷計画を立案する初期計画、立案段階から海象を考慮した計画立案を行いたい。	18	気象データを普段活用していない業界において、どう気象データが活用可能かアイデアが浮かばない
8	データの内容や取得方法は理解できました。システム屋として、どうビジネスにつなげるかはまだピンと来ていません。	19	過去に局地的雷雨が起きた時の資料（500hpaの各寒気、850hpaの相当温位、SSIなど）のパターンの保有が限られる。
9	・気象データのとりあつかいについて、統一的なプラットフォームの構築。 ・情報活用のしきいを下げるための抜本的なシステムの構築	20	海外の気象データ（過去）の入手（そもそもどのようなデータが入手できるのか、価格はいくらなのかetc含む） 必要な（パラメータ、周期etc）
10	何からどう使っていくか、というところの状態であるため、色んな事例があると助かると思います。	21	観測点のない地域における、過去の気象データを把握したいことがある（メッシュデータのようなものがHP上で閲覧できるとありがたい）
11	天気予報士（受験中）、統計学に詳しい機械学習エンジニアは存在するが、気象関連は実績も事例も少なく、費用対効果も示せないため、ビジネスとしてなかなか前進が難しい。		

問6 今回のセミナー、気象ビジネス推進コンソーシアムに対してご意見・ご要望がありましたら、ご記入願います。

1	個人会員を認めて欲しい	10	JWAの桜井さんのお話は、非常に参考になり、わかりやすかったです。
2	期待してます！	11	新たな取り組みの開発に関して、多様な業種の事例紹介等を希望します。
3	日本気象協会の営業の場と感じました。	12	予報データ向上の実験等に関わってみたい
4	データ活用のためのクラウドサービスがあるとうれしい。	13	セミナーの日時が決まった時点で早めに連絡して欲しい。
5	ビジネスの事例（日本だけでなく海外事例も）の紹介	14	大変勉強になりました。ありがとうございました。
6	次回は気象データ分析のセミナー開催を希望します	15	時間に対して内容が多いので、より多く時間を取っていただいた方が良いかと思えます。
7	気象データを利用する（したい）異業種企業連携を企画してほしい（テーマ別、ニーズ別）	16	まだ具体的な方向性が見えていないので、今は、全方位的な情報の共有化をお願いしたい。
8	気象庁からのデータ提供においてAPI提供をすることや、民間気象会社での提供方法の簡便化、使いやすさを良くすること含め検討して欲しい。GPVデータ等、過去データの入手をやすく、解析利用しやすいDB等があると良い	17	まず、あらゆる分野において気象や気候との相関関係を発見・研究する専門家が必要だと感じた。場合によっては人間活動についても相関関係を見つけてほしいと感じた。
9	気象データの利活用の推進をあまりに早急に進めようとする、誤った理解のまま情報が拡散する可能性を今日のセミナーで感じました。データ入手の前に気象学の基礎をセミナーに加え、最低限の知識をもとに利活用をすすめるべきだと思います。	18	リスクの回避やロスの軽減をするために、どの程度のコストがかかったか、事例紹介の際に示していただきたいです。要するコスト<リスクやロスの軽減が明らかにならないと、気象データの利用に手を出しにくいのでは、と思います

## 気象ビジネス推進コンソーシアム 第4回運営委員会議事概要

- ・日時 平成29年7月25日(火) 13:00~15:00
- ・場所 富士通デジタル・トランスフォーメーションセンター 会議室
- ・出席者 委員18名中、17名出席。(1名欠席)

### ・議事概要

#### 1 気象ビジネス推進コンソーシアム ロゴ使用規程(案)

##### 【主な意見】

事務局自体のロゴ使用はどうなっているのか。コンソーシアム自体のプロモーションに使うことを明記すべき。

営利目的とは、どこからどこまでを指すのか。

厳密な定義はしていないが、WXBCを周知するのに活用いただくことを想定しており、各事業者様の営業に使うとなると営利目的となると考える。

例えば、(営利目的なく)熱中症対策の普及啓発セミナーを行い、将来的に特定の飲料が売れるような場合等が、営利目的とみなされるのか。

その時点で営利目的でなければ営利とみなさないと考えるが、この点については、皆様にも意見を伺いたい。

使用目的が変われば、その時点で再申請するものとする。

明らかにこれは営利目的だといった基準はあるのか。イベント等で会員と共同で使うような場合等が考えられるが。

会員としての証明として、名刺に入れる等はいかがか。

名刺の場合はWXBC自体のプロモーション性が強いのでよいのではないか。あらましの基準を決めて、その時その時の目的、範囲で精査をするしかないのではないか。

ロゴを使って宣伝・営業的に使う意図が明らかに見えるものは遠慮いただくような規程でよいか。

例えば、商用のパフレット等で、WXBCで作ったものでないものにロゴを入れ、いかにも惑わせる様なものであれば営利目的と判断することになるだろう。

ロゴの配布については、ホームページ(HP)で公開等をするのであれば会員以外も自由にダウンロードして使用できることになるが、会員専用ページで配布する等の対策についてはどう考えるか。

使用規程を明示した上で、ロゴをHPで自由にダウンロードできるように公開するので、特段問題ないのではないか。

発表資料について、パワーポイントのテンプレート（表紙、中身）も規定した方がよい。

デザインも含めて、調整する。

**【決定事項】**

WXBC 事務局の使用に係る規定を明記したうえで本内容を了承することとし、HPで公開する。

2 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更

**【決定事項】**

人材育成 WG :

日通学園流通経済大学・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構・ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)のメンバー追加を承認。

(株)IHI・日本IBM(株)の脱退を承認。

新規気象ビジネス創出 WG :

日通学園流通経済大学・(株)ライフビジネスウェザー・ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)・ウェザーニューズ(株)のメンバー追加を承認。

3 今年度のWXBC総会、気象ビジネスフォーラムの開催日、会場について

**【主な意見】**

パネル展示の場所は確保されているのか。

ホール横に確保している。

**【決定事項】**

平成30年2月13日に一橋講堂で開催することを決定する。総会及びフォーラムの内容は今後検討することとする。

4 6/21(水)第2回、7/19(水)第3回人材育成WG開催報告

**【報告概要】**

- ・WG内で「気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画」、「業種業態、地域特性に合わせた人材育成&出張講座の実施計画」、「テクノロジー(IoT、AI)を利用した気象ビジネスを構築できる人材の育成計画」を検討課題として、議論を進めている。
- ・業種業態に関する人材活用については、新規気象ビジネス創出WGと連携を図るべく、同WG座長と相談の上で進めている。

## 【主な意見】

気象ビジネスをリアライズできる人材を早く育てる。大枠この方向で進めたいが如何か。

育成されるような対象の人材がないため、WXBC が立ち上がったと認識している。そういった意味で、セミナー等で教えるという態度では上手くいかないのではないかと。育成するというよりは、それが育つ環境を提供する観点がないと中途半端な知識を与えるだけになりかねない。今行っていることを進めつつ、我々自身にも足りないところを補う場とも考えた方が成功すると考える。

気づいて自分で変わろうとする意識が必要。ご意見の側面は強めていきたい。

人材育成 WG ということで各種計画にそのワードを使っているが、共に“気づこうとする”、“育とうとする”、“学ぼうとする”場を提供することと考えている。ワーディングの工夫はしていくとして、基本にそういった思いがあることは共有しておきたい。

「気象ビジネス」という言葉が先行しすぎている。気象ビジネスをやりたい人を集めるのではなく、既存ビジネスに気象データを活用して伸ばしたい人を集められるとより広がりがみられるのではないかと。

気象情報を事業に使うことが、実はシーズであることを気づいてもらえるような掘り起こしができるよう、表記も心がけていきたい。

「上からではなく、一緒にわからないところ、足りないところを探しましょう。」といった一緒の目線で取り組むことが必要。

マインドの問題、スタンスについて意見を頂いたので、参加者募集の際の文案などにも注意しながら進めていきたい。

セミナーをやることを目標にしてはいけない。何のためにセミナーに参加したのかの拾い上げも行う必要がある。

前回の運営委員会では、気象データを知らない方に基本的なことを伝えていくことが周知されたが、今回変わったこととの背景として、第1回のセミナーの開催状況、第2回セミナーの募集状況を踏まえると、このままではまずいと判断し、手を変えてIT技術者向けの企画等を早急に検討することにしたことをお知らせしておきたい。状況を踏まえ、第3回のセミナーには新しいアプローチを盛り込んでいきたいと考えている。WXBCの設立から5か月が経とうとしており、WGの活動を広く知ってもらいたく、できるものから早く実施していくことを考えている。

継続性をもっていないといけない。セミナー参加者のニーズを拾い続ける必要もあるし、参加者に教えた知識があとになっても取れる・再現できるようにする工夫が必要。アンケートを解析して反映できるような議論の体制が必要。これから用意するHP等で利用者からの疑問の受け付け、教材の提供等、イベント以外も含めて継

続的に行えるようにするとよいのでは。

今後とも状況を見直しながら進めていく。初動として基本的に同意いただけるなら、具体化に着手したい。

コミュニケーションをきちっとやっていくことが重要。

“気づき”は大切だが、どうすると気づくのか、トップダウン・ボトムダウン・コミュニケーションをとる・手を動かす等いろいろな要素を踏まえながら皆で志をもって進めていければよい。

## 5 7/3(月)第2回新規気象ビジネス創出WG開催報告

### 【報告概要】

- ・ビジネスWGの目的について議論をし、「気象データとビジネスをつなぐ人材が必要として、人材育成WGと連携して進めていく」、「(利益を生み出す事に主眼を置いた)事例集を作成し、ビジネスを企画・プロデュースしていく人に気象がこんな風に見えることが伝わっていない人に知ってもらおう」、「ビジネスを展開していく上で、制度面で上手く行かない点等があればその解消も含めて検討していき、(利活用事例集から)新規気象ビジネスのモデルを創出する」ことを活動の柱とする。

### 【主な意見】

アジアオープンデータハッカソンのインプットセミナーを7/22に行った。気象予報士に参加してもらい、気象データに関する必要な説明を行ってもらい、アイデアソンを行った。

8/5、6にハッカソンを行うが、気象予報士にもアドバイザーとして参加してもらい、ビジネス・ITの人達との接点を持ってもらい、自分達の活動の幅が増える事を知ってもらう、ビジネス・ITの人達(参加者)には気象予報士にこういったアドバイスがもらえることを知ってもらう、そういう場の一つとしてどこまで有効かを検証することも考えている。

## 6 その他

### 【報告概要】

- ・7/22(土)に開催したシンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙からの最先端データが切り拓く未来～』について開催状況、アンケート結果等をニュースレターで報告すること等が報告された。
- ・「地球ウォッチャーズ - 気象友の会 - 」に入会すると、最新の気象情報、出版物などを知ることができることが紹介された。